

[特集] **血栓・止血の
異常を理解する**
広くて深い基礎知識

- [Chapter 1] 血栓・止血の入り口
- [Chapter 2] 血栓・止血に関連する疾患
- [Chapter 3] 血栓・止血に関連する薬剤
- [Chapter 4] 血栓・止血のトピックス

本号の特集テーマとして「血栓・止血の異常」を取り上げた。血栓・止血というと、あの複雑な凝固カスケードを含めて、苦手意識が強い人も多いかもしれない。血液を専門とする医師でも、診療業務の大半は造血器腫瘍を対象としているために、血栓・止血については慣れ親しんでいないことがある。一方で、血栓・止血の異常に伴う症候は多岐にわたり、さまざまな診療科で対応が求められる。

そこで本特集では、Chapter 1を「血栓・止血の入り口」と題して止血機序、検査の解釈、そして鑑別診断の流れについて概説していただいた。Chapter 2は疾患各論として、血栓・止血の異常による疾患を、血栓を主とする病態、出血を主とする病態、両者を伴う病態の三つに分類して解説していただいた。Chapter 3は血栓・止血に関連する薬剤について扱った。血友病に対する二重特異性抗体などの特殊な薬剤の解説は疾患各論に委ね、この章では汎用される薬剤に限定して紹介している。Chapter 4では血栓・止血に関するトピックスについて解説していただいた。いずれもすでに臨床応用されている新規治療を二つ取り上げた。

「広くて深い基礎知識」というサブタイトルにあるように、まずはChapter 1で広く浅く知識を習得していただいた後に、Chapter 2以降でより深く掘り下げていただくことをねらいとしている。すべての領域にわたって深く、というのは容易ではないので、Chapter 2についてはご自身の診療に関連する疾患だけを選択して、熟読していただくという読み方でもよいかもしれない。血栓・止血学は多彩な専門分野をまたぐ横断的学問として発展してきたものであり、本特集が単に診療現場に役立つということだけではなく、多くの医師が血栓・止血に興味をもつきっかけになることを期待している。

神田善伸

(自治医科大学附属病院/附属さいたま医療センター 血液科)